

Eコース

一 友達になる本を見つけましょう。

友達になる本とは、どのような本でしょうか。

次に例をあげておきます。

【友達になる本の例】

例 1 学校で勉強したことと関係がある本

例 2 自分が力を入れていることと関係がある本

例 3 生活の中の話題と関係がある本

例 4 教科書にのっている物語などの作者の本

例 5 今の世の中のことと関係のある本

例 6 家族や先生、友達がすすめてくれる本

例 7 自分がいつも考えていることや思っている

ことと関係がある本

※ こんな本をさがして読んでみましょう。

きっと、新しいことに気がつくと思います。



二 感想文を書くときには、

書き出しを工夫すると、

書きやすくなります。



書き出しの工夫には、次のようなものがあります。ぜひ、参考にしてみてください。

参考1 感動したことばの引用から書き始める。

【例】「早く春が来ないかなあ。」という主人公のことばが、いつまでも心に残っている。

参考2 題名から考えたことから書き始める。

【例】「春のけしき」という本の題から、私は、桜が満開の学校を思い出して、うれしくなった。

参考3 登場人物に話しかけることばから書き始める。

【例】お兄さん、私も、大きくなったら、お兄さんのようにやさしい人になります。

参考4 自分の体験から書き始める。

【例】私は、学校で友達は大切だと心から思ったことがあります。それは、私がこまったときに、やさしく助けてくれたからです。

参考5 今の気持ちや想像から書き始める。

【例】今、私には、たしかに輝いている星空が見えています。私が目標としている美しい未来という星空が。

参考6 自分の考えていることや思っていることから書き始める。

【例】必ず、上手になるんだ。私は、今、リコーダーで練習しているあの曲が吹けるようにと、思っている。

参考7 作者に話しかけることばから書き始める。

【例】作者である○○さん。私はあなた

から、「いのちがいかに大切なものか」ということを学びました。

※引用（いんよう）とは、本の中のことばや文章をそのまま取り出して書くことです。

三 友達の感想文を読んでみましょう。

鳴門教育大学附属小学校の

井村華子さんが書いた

感想文です。



1 自分の想像から書き出しています。

目を閉じると、見えてくる。にじ色に光り輝く満天の星。そして、私がそんな中にいる。待っているのだ、「こども電車」……………。

2 続いて、自分が、自分の生活の中で力を入れていることを書いています。

私の待つ電車は、すきとおった青色をして、きらきら水面の輝きを持った「水泳選手」の夢を乗せた希望列車だ。私は、真っすぐな心と純粹（じゆんすい）な目をして、いつかかなえたい。自己記録への思いを抱いて。今日も電車を待っているのだ。そんな、わたしの「こども電車」をえがきながら、この夏、この本を読みすすめた。

3 その後には、本との出会いによって、変わっていった自分の心を書いています。

いつの間にか変わっていく心。この心を、「こども列車」に乗ることで、もとの真っすぐな心に変えていこう。



いじめや、病気なども治してしまう「希望」を抱かせて、こどもを元気にする電車なんだ。

4 最後には、自分の強い思いを書いています。

私は、今日も泳ぐ。目を閉じて、とびこみ台に上る前に、自分が今晚乗ろうとしている「こども電車——夢への切符」を手の中に、強くにぎりしめている姿をえがきながら。

5 井村さんは、次のような工夫もしています。

工夫1 本に書かれていることと自分の経験を、
「私にも………」と同じようなこ
とがあった」と結びつけている。

工夫2 聞いたことや調べたこととを結びつ
けて書いている。

Fコース

一 友達になる本を見つけましょう。

友達になる本とは、「自分の感想を、友達や家の人、先生や地域の方に知らせたい、知ってほしい」と思う本のことですね。



次に例をあげておきます。

【友達になる、感想を書きたくなる本の例】

例 1 学校で勉強したことと関係がある本

例 2 自分が力を入れていることと関係がある本

例 3 自分の知らないこと（疑問）を解決してくれるような本

例 4 生活の中の話題と関係がある本

例 5 自分の考えを広げたり深めたりしてくれそうな本

例6 教科書にのっている物語などの作者の本

例7 今の世の中のことと関係のある本

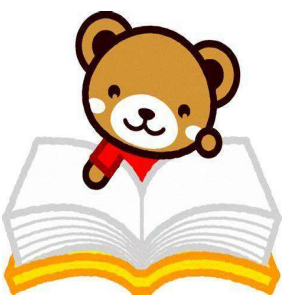
例8 家族や先生、友達が紹介してくれた本

例9 自分がいつも考えていることや思っていること、どうしてかなと不思議に思っていることと関係のある本

例10 自分が興味をもてて、楽しく読める本

二 感想を書くために大切なことは、何でしょう。

次のようなことが、大切ですね。



大切1 作者が、その作品で言いたいことを考えながら読む。

大切2 疑問（ぎもん）をもちながら読む。

大切3 自分と比べながら読む。

大切4 「自分なら……」と考えながら読む。

大切5 新しいことを知りながら読む。

三 感想文を書くとき、どのような書き方をしたらよいか、考えてみましょう。

1 書くこと

次の中から、書きたいことや書けそうなことを選んでみましょう。

- ① 心に強く残ったことを書く。
- ② 自分の経験や考えを書く。
- ③ 感動したことを書く。
- ④ 自分ならどうするかを書く。
- ⑤ 自分ならどう考えるか、どう思うかを書く。
- ⑥ 自分も見習いたいことを書く。
- ⑦ 自分の考えが変わったことを書く。
- ⑧ 初めて知ったことを書く。
- ⑨ その本に教えてもらったことを書く。
- ⑩ もっと知りたくなったことを書く。



※ 書きたいことは、見つかりましたか。

2 書き出し

今度は、書き出しを考えましょう。

書き出し① 思ったことや会話文から書き始める。

【例】 「私は、とにかく一生懸命する。」
そう思って、私は、○○に挑戦した。

書き出し② 感動したことから書き始める。

【例】 主人公の○○のやさしさに、心がふるえた。それは、今でも、心に残っている。

書き出し③ 作者が、自分に教えてくれたことから

書き始める。

【例】 作者の○○は、私に

「いのちは、人間も、動物も、大切にしなければならぬのだよ。」と教えてくれた。



四 ともだちの感想文を読んでみましょう。

鳴門教育大学附属小学校の

鈴江まりあさんが、

書いた感想文です。



1 自分の気持ち、思いから書き始めています。

真っ直ぐに見ることが出来ない。言葉が胸に突き刺さって、読み進めようと思ってもなかなか前に進まない……。読むのが苦しい部分がたくさんあり、逃げ出したくなる気持ちがある。しかし、逃げてはいけない、しっかりと向き合って、読まなければという責任感のようなものも湧いてくる……。本を読んでいてこんな気持ちになったのはこれが初めてだ。

※ 鈴江さんは、戦争（原爆）の物語を読みました。

2 最後は、次のように書いてあります。

自分がしたことと、考えたことや感じたことを書いてありますね。

令和元年八月十五日。令和になっての初めての終戦記念日。正午の時報に合わせて静かに黙とうした。一分間、私にとってその時間がとても長く、その音が強く強く心に響いた。平和は私たちに当たり前に与えられているものではない。平和の尊さや、言葉では表せないほどの大切さをしみじみと感じた。戦後七十四年目の夏が終わる。

※ 鈴江さんは、書き始めと

最後の文章の間には、作者と
いっしょになって、考えたり
思ったりしたことを書いて

あります。

